



大磯小学校 学校だより

令和6年10月25日

【学校目標】 おだやかに 自ら学び 共に育つ

校長 成田 麻紀



日一日と寒暖差が大きくなってきました。朝晩は上着がないと寒いと感じます。手足口病やマイコプラズマ肺炎など、全国的に広まっている感染症もあります。体調管理には十分お気を付けいただければと思います。また、お子様の体調が悪いときには、無理をせず、身体を休めていただければと思います。

先日、登校の様子を見ておりますと、1年生の女の子2人が足を止め、「いつも見守りありがとうございます」という言葉をくれました。5月にも同じことを書きましたが、その時とはレートが違うので別の児童です。たまたまそのとき一緒にいた地域の見守りの方も、驚くとともに、喜んでくださっていました。言葉というものは力をもつもので、ちょっとした言葉が人を喜ばせ、励ましとなる一方で、些細な言葉で傷つけてしまうことがあります。児童同士、教員同士はもちろんのこと、児童と教員、児童と保護者、保護者と教員の間でも、そんな温かな言葉のやりとりがされるといいなあ…と改めて思わされた一場面でした。

「実りの秋」というお話を9月号に書きましたが、子どもたちが通学する道の途中には、様々な自然があります。これもやはり登校時のことですが、二人の女の子が、「校長先生、見て!!」とかわいらしい拳を前にして寄ってきました。何かと見て見ていると、その手の中からまるで毛虫のような動きをしながら出てくる猫じゃらしの穂。「こんなに長いのがあったんだよ!!」と言う、誇らしい顔。「担任の先生にも見せてあげてね。」と見送りました。続いて、何か視線を感じるな…と思ったら、今度は数人の男の子。「どうしたの?」と声をかけると、「校長先生に『ひつまむし』つけようと思ったけど、やめた!!」と走り去っていきました。どちらも身近に手に入る、そして秋ならではの自然物。こんな素朴な遊びが、ICT 端末を簡単に手にできる現在にあってもなお、受け継がれているのだな…と、朝からほのぼのとした気持ちになりました。

一方で、ほのぼのしてられないのが交通マナーです。線路沿いの様子しか見ておりませんが、道の真ん中を越えるくらい（5人くらい並んでいます）まで広がって歩く姿、車が来ているかを確認せずに横断する姿、6月頃、せっかきれいにしてくださったストップマークを無視して歩き続ける姿…



いつ大きな事故が起きてもおかしくない、と思うのは毎日のことです。登校時の帽子を含め、いまいちルールを守って登校できるよう、一人一人が意識してほしいと思っています。

今月は、6年生が「命の授業」を実施しました。町から助産師さんをお招きし、お話を聞きました。見に行った時、投げられた質問に、臆せず答える児童の姿に、感心させられました。

生まれてくるとき、お母さんはものすごく努力をした。同時に、みんなも「生まれるぞ!!」と努力してきたんだよ、がんばったんだよ、だからこそ、「生きているだけで100点満点!!」というお話が、心に残ります。なかなか聞く機会のないお話。子どもたちの胸に、いつまでも刻まれていくことを願うばかりです。



ちょうど本校では、お知らせも配付いたしましたが、熊川養護教諭が産休に入りました。大きくなったお腹に触れる児童もいたようです。身近なところで「いのち」を感じる体験にもなったのではないかと思います。自分の命、周りの人の命、全ての生き物の命を大切にできる人になっていってくれることと思います。

5年生では、5年ぶりとなるのでしょうか、コロナ禍以来の宿泊キャンプが実施されました。はじめて家から離れるという児童も多かったように思います。天候にも恵まれ、元気よく出発しました。

この日は、東海大学の学生が9名、ボランティア参加をし、様々な場面で活躍してくれたようです。応援に駆け付けた職員も多数。多くの人たちの協力もあり、大きなケガもなく、無事に帰ってくることができました。



ウォークラリー（最乗寺）



夕食（焼きそば）づくり



キャンプファイヤー

大自然に囲まれ（南足柄市は「杉の美林100選」に選出されています）、日常とは異なる不便な生活であったことと思いますが、堪能できたのではないのでしょうか。

お風呂の時間、タオルを持たずに浴場に訪れた児童が何人かいたことを聞き、日ごろどれだけ快適な環境で生活しているか（保護者の皆様の支えによる）、そこにも気づけたのではないだろうかと思っています。ありがとうございました。

今回は、いろいろと書いてしまったので、ずいぶん長い学校だよりとなってしまいました。

来月は校内音楽学習発表会です。校内のあちこちから、様々な音色が響き渡ってきます。これまでの学習の成果を発表する場であって、コンクールのように優劣を競う場ではありません。子どもたちには、生涯のうち、今の学級のメンバーで過ごすことは一度しかありません。そのたった一度のメンバーで、一つのものをつくり上げる楽しさを、存分に味わってほしいと思っています。当日、素敵な表情で演奏する姿が見られることを、心から楽しみにしております。

先日、大磯地場産品であるマコモダケが給食食材に使われた際、小宮栄養教諭が実物を持って1年生の教室を回るのに同行しました。「すご〜い!!」とその大きさに驚いたり、スープの中から探し出して「これ?」「これでしょ?」と箸でつまんで確認したりする姿がまほえましかったです。2m程の丈があるマコモダケ。「校長先生より大きいかな?」とのつぶやき。もちろんマコモダケが大きいですよ!!